

# APAFRI（アジア・太平洋地域林業研究機関連合）第2回総会報告

大 貫 仁 人

## はじめに

1997年3月にベトナム社会主義共和国ホーチミン市においてAPAFRI（注1）の第2回総会が、アジア・太平洋地域林業研究機関場所長会議との合同の形で開催された。これらの合同会議は、FORSPA（注2）活動の一環であるが、併せてFORSPAの第5回アドバイザリーグループ会合も開催された。これら会議には、アジア・太平洋地域19か国の機関長や代表の他、CABI, CIFOR, FAO, INBAR, IUFRD, TROPENBOS等の国際機関の長や代表、さらには、カナダ、米国が参加し、日本からは筆者が出席した。今回のAPAFRI総会は、会員参加のはじめての総会であるため、設立総会とも位置づけられる。

APAFRIについては、IUFRD-Jニュース・No.60での紹介<sup>1)</sup>や、さらには、日本の関係機関への加入の勧誘パンフレット、APAFRIニュースレターが配布されていることから周知のことと思いますが、ここでは、APAFRIの概要やこの総会で方向付けされた行動計画、執行体制、会則の変更等について紹介し、併せて、2つの会議のことにも若干触れておきます。

## 1. APAFRIの設立と目的

APAFRIは、1995年2月、FORSPAによって召集されたアジア・太平洋地域林業研究機関場所長会議（於インドネシア・ボゴール）において設立され、同時に執行委員会を設置し、会則を承認した。1995年7月に第1回執行委員会をタイのFAO事務所（RAPA）で開催し、APAFRIの活動に関わる広範な議論の後に実質的な活動が開始された<sup>1)</sup>。

OHNUKI, Itsuhito : Report of the 2nd Meeting of General Assembly of Asia Pacific Association of Forestry Research Institutions (APAFRI)  
農林水産省森林総合研究所

APAFRI の設立の目的は、アジア・太平洋地域における「持続可能な森林経営」に関する研究を発展させることであり、そのために、特に、林業研究機関の研究開発能力の増強、科学的・技術的なノウハウ・情報交換の促進、共同研究や研修活動の促進、地域内の研究関連機関間の連携強化を目指している(APAFRI 会則)。

## 2. APAFRI と FORSPA との関係

APAFRI の設立の経緯は、FORSPA の活動と無縁のものではない。FORSPA は、アジア・太平洋地域の国々における林業研究開発能力を強化することを目的として FAO により設立され<sup>2)</sup>、第 1 フェイズ (1991–1995) では、アジア開発銀行、UNDP、AusAID、ODA の資金援助により、表 1 に示す活動を行い、続いて第 2 フェイズ (1996–2000) では、オランダ政府の資金援助で表 2 に示す活動を開始している。FORSPA の活動が 2000 年 3 月に終了することから、この地域の林業研究の発展に貢献してきた FORSPA の活動（特に、ネットワーク活動）を終息させないため、その引受け手となる組織、それは、ドナーの意向に左右されない、自前の資金で独立性を持つ持続的な組織で、しかも

表 1 FORSPA 第 1 フェイズの活動内容

- 
- ①重点課題に関する研究プロジェクト支援（流域管理、荒廃林地と土壤流亡、高生産性造林、生物多様性と特用林産物を含めた生態系保全、林業開発へのコミュニティ参加）
  - ②研究情報・文献サービス、ニュースレターの発行
  - ③研究者の国際会議への参加支援
  - ④各種研究セミナーの開催
- 

表 2 FORSPA 第 2 フェイズの活動内容

- 
- ①データベースの開発と更新（短期研修コースリスト、完了研究プロジェクト、実行中の研究プロジェクト、研究機関と研究者リスト）
  - ②研究ネットワーク支援（TEAKNET、非木材林産物、CSIRO との接続、Tree Nutrition に関する共同研究）
  - ③民間研究機関の育成、技術開発シナリオの作成等
  - ④研究計画の策定支援（カンボジア、ラオス、ベトナム、ミャンマー、スリランカ、パプアニューギニア、ソロモン諸島）
  - ⑤研究開発能力の向上支援（研修活動、情報支援サービス、研究協力体制づくり）
-

IUFRO のように NGO 的な組織を設立する必要に迫られたからである。その設立には、当時、アジア地域では最初の IUFRO 会長であったマレーシア森林研究所 (FRIM) 所長の Dr. Salleh の意向と奔走があったことを付記しておきたい。ところで、今回の FORSPA アドバイザリーグループ会合では第 2 フェイズの活動方針や活動状況が報告され了承されるとともに必要な変更が加えられた。

このようなことからも、FORSPA の第 1 フェイズでも APAFRI の設立、会員の加入促進、長期計画の作成、執行委員会の開催と資金援助、APAFRI ニュースレター等印刷物の印刷・配布等の支援と事務局業務の遂行に努力してきたし、第 2 フェイズの活動計画の大きな柱の一つとして APAFRI の支援をあげており、上記の支援活動に加えて、総会開催、Rao 賞設立、林業研究成果の実用成功事例の摘出等の APAFRI の活動等への支援活動をあげており、既に事務局業務を含めて実行している。

### 3. 総会での検討内容と決定事項

総会では、執行委員会の活動報告と執行委員会で取りまとめた活動方針について議論され、方向付けが行われた。主な事項について簡単にご報告する。

#### 3.1 会員の加入促進方策

APAFRI は FORSPA の協力を得て、ニュースレターやパンフレットの発行、国際機関や研究プロジェクトとの連携により会員の加入促進に努めてきた結果、現在までの加入数は、20か国 34 機関となっている。この中には、ACIAR, CIFOR, CAB インターナショナル, ASEAN Tree Seed Centre 等の国際機関や ITC Bhadrachalam Paper Boards (India), TROPBIO Research (Malaysia) 等の私企業が含まれている。各国の加入状況は、インド、フィリピン：各 4 機関、台湾、マレーシア、パプアニューギニア：各 3 機関、オーストラリア、バングラデシュ：各 2 機関で、その他は各 1 機関といったところであり、日本からは、森林総合研究所のみが加入している。

強力な会員組織を作り上げることが APAFRI の活動を活発にするためにも優先すべき課題であり、総会では、2000 年までに 100 機関の加入を目標に執行委員はもとより会員機関自らも加入促進に努力していくことが確認された。

加入促進には、APAFRI の活動を活発にし、加入した場合のメリットを訴えていくことが必要であるわけで、この小論が、読者諸氏の理解を深め、APAFRI への加入促進に役に立てれば幸いである。

なお、年会費については、次のような国情に応じたカテゴリー制を採用している。

カテゴリー 1 (先進国、国際機関) : US \$ 1,000

カテゴリー 2 (発展途上国) : US \$ 250

カテゴリー 3 (発展停滞国) : US \$ 50

### 3.2 会則の修正と執行体制の整備

#### 1) 会則の修正

APAFRI の設立時に定められた「会則」については、既に各機関に配布されているが、第 2 回執行委員会で、執行委員の構成と任期についての会則 (11 条) を変更する必要性が指摘され、議論された。現会則の 11 条によれば、執行委員の任期は、総会後の 1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっている。1997 年 3 月の総会で執行委員が選出されても、1998 年 1 月 1 日からしか執行委員としての活動ができないという現実的な不都合を生じる。また、この 11 条では、委員の選出について、会長を除いては再選を禁じているが、組織運営の継続性を考えると、特に、設立間もない最初の段階では問題は大きい。そのため、執行委員の構成については、①半数を改選し、半数は継続すること、②前期の議長は、委員として残留する (IUFRO と同じシステム) こと、執行委員の任期については、総会開催日の翌月の 1 日から、次の総会の開催月の月末までとするとの趣旨の変更が提案され、了承された。

#### 2) 執行委員会の構成

会則の修正が承認された後、執行委員の選出が行われ、次のような新執行体制が確立した。任期は 3 年後の総会までとなる。日本からは、森林総合研究所海外研究協力官の池田俊彌氏が再選され、Ⅱ期目も頑張って頂くこととなった。

会長 : Dr. Salleh M.N. (Malaysia)

副会長 : Dr. Lucrecio L. Rebugio (Philippines)

前会長 : Dr. Suree Bhumibhamon (Thailand)

委員 : Dr. B.N. Gupta (India)

Dr. Toshiya Ikeda (Japan)

Dr. Glen Kile (Australia)

Dr. Zhang Shougong (R.P. China)

事務局長 : Dr. Kamis Awang (Malaysia)

### 3) 事務局の移転

会長に Dr. Salleh が選ばれ、事務局長に Dr. Kamis が就任することになり、タイ・バンコックの FAO アジア・太平洋地域事務所 (RAPA) にあった事務局を Forestry University Pertanian Malaysia (UPM) の学長の好意により、同大学内に移転することに決定した。

#### 3.3 國際機関との連携、特に IUFRO との連携

APAFRI の活動には、各国研究機関との連携に加えて、CGIAR を初めとする国際機関との連携が重要である。CIFOR (国際林業研究センター) 等既に加入している機関は勿論、いろいろな国際機関との連携強化に努力することが肝要である。中でも、IUFRO との連携強化のため、APAFRI を IUFRO の地域支部と位置づける議論が 1995 年の APAFRI 設立当初から行われてきた。APAFRI にとっては IUFRO の技術的知識や長期間に構築した世界的なネットワークを利用できるし、APAFRI はこの地域に焦点を当てることにより、これまで IUFRO に加入していなかった研究機関や研究者をもネットワークに参加させることができる。IUFRO と APAFRI 両者の関心が同じであり、密接な連携により相互に利益があると考えられることから、IUFRO 事務局は原則的には、地域支部/組織についての認知/承認の考え方同意していることを、この総会に出席した IUFRO 会長が発言し、そのため IUFRO の規約を整備していくことを約束した。

#### 3.4 APAFRI のシンボルマーク

APAFRI と FORSPA がこれまで共通的に用いてきたシンボルマーク (図 1 : 原色は緑色) については APAFRI のシンボルマークとして用い、FORSPA



写真 1 APAFRI 新執行委員メンバー  
右から、Dr. Lucrecio、筆者、Dr. Kile、  
Dr. Suree (前会長)、Dr. Salleh (会  
長)、Dr. Zhang、Dr. Gupta、Dr.  
Kamis、Dr. Nair (FORSPA 事務局長)



図 1 APAFRI のシンボル  
マーク (原色は緑色)

では用いないことを FORSPA が同意した。

### 3.5 中期行動計画

APAFRI の目的は前記したように、地域内の林業研究機関の研究開発能力を増強させることであり、そのため、

- ① 密接な組織的、専門的、個別的な連絡体制の構築、
- ② 定期的なテーマ別会合や目的別連絡会の開催、
- ③ 研修や専門家会合の開催、
- ④ 地域に関連する IUFRO 関連行事の開催、
- ⑤ 重要問題に関する IUFRO, FAO, CIFOR, ITTO, ICRAF, IBSRAM, APAARI 等の国際機関や地域組織との連絡窓口の設置

等の活動を通じて加入機関に対して専門的な指導と支援を行うこととしている。そして、これらを遂行するため、

- ① 会員機関間又は世界の他の地域とのネットワークの構築と連携活動
- ② 情報、研究手法、研究システムの共同利用
- ③ 地域の重要問題についての戦略的レビューと研究計画の策定支援
- ④ IUFRO, FAO, CGIAR, CABI 等で利用されている地球規模の情報システムの利用についての支援
- ⑤ ニュースレターや印刷物の定期的な発行
- ⑥ これらの活動の資金提供者の確保

等の活動を実際に行う計画を立てている。

特に、今後 5 年間に優先的に取り組む事項として執行委員会で整理した「中期行動計画」について審議し方向性を与えた。

その中には、前記した「会員の加入促進」、「事務局体制の明確化と充実」、「小さな事務局体制をとるための事務局業務の分散化」があげられているほか、下記の事項が含まれる。

- ① Workshop on Tropical Acacia を ACIAR と共に催す。  
組織委員会に参加し、また、この会議への会員機関研究者の参加に助成する。
- ② 地域内の林業研究の現状を冊子体として取りまとめる。  
研究開発の方向について目的や問題点を含めて取りまとめる。当面は会員機関を対象とする。
- ③ 若手研究者の優秀研究論文に対する APAFRI 賞「Rao 賞」の授与  
アジア・太平洋地域の林業研究の発展に尽力され、志半ばで不慮の事故

により他界した FAO/RAPA の Dr. Rao の功績にちなんで名づけられた名称。会員機関の 35 歳以下の若手研究者が対象で、会員機関からの推薦に基づき選考委員会で選考し、受賞者には、賞状と楯、表彰式への出席旅費が与えられる。

#### ④ 研究成果の実用化成功例集の作成

研究成果が実用化に結びついた成功例を各国毎に 1 例ずつ取り上げ、順次取りまとめて会員に配布していく。候補課題として、インドネシアのチーク造林、インドのユーカリ造林、フィリピンのラタン林経営、マレーシアのマングローブ林管理、日本の針葉樹造林等が候補に挙げられている。

#### ⑤ TREELINK プロジェクトとの連携

Association of Southeast Asian Nations Forest Seed Centre のプロジェクトで、ASEAN 諸国の天然林の保全と郷土樹種造林の推進を目的として、情報交換、ネットワーク作り、人材の養成、研究開発成果の実用化等のため、文献サービス、情報交換、インターネットや e-mail サービス、セミナーの開催等を行う。予算は 1997-2000 年の 4 年間で US \$ 350 万。

#### ⑥ データベースの構築と更新

APAFRI が地域内の研究機関や研修機関のデータベースにアクセスできるようなシステムを造り上げ、これら機関の名称、所在地、窓口、研究（業務）分野、研究（研修）計画を会員に提供できることにする。資金的な問題から APAFRI は独自のデータベースを開発するよりは、会員機関のデータベースの開発やデータの更新に協力していくこととする。このようなデータベースは、管理運営、計画立案、会員の勧誘、研究能力の定期的レビュー、連絡等に有用である。

#### ⑦ 資金確保

APAFRI が独自の計画や存立基盤を確立するためには、資金の造成と積み立てが必要である。企業からの資金提供の要請など革新的なやり方で資金の確保に努力する。現在の活動資金のため、5 年間に US \$ 100 万を確保できるよう努力する。

### おわりに

APAFRI 総会に先駆けて開催された場所長会議では、アジア・太平洋地域における ① 研究強化のための IUFRO の役割について IUFRO 会長から、②

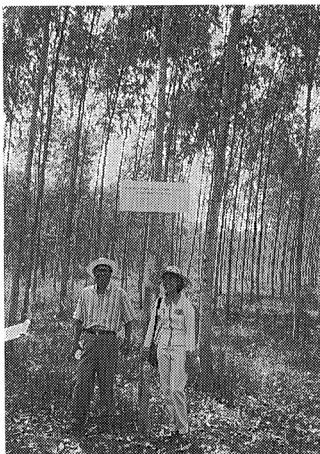


写真 2 フィールドトリップの一駒  
*Eucalyptus camaldulensis*,  
1993. 7 植栽, H=11 m,  
DBH = 3.7 cm, V = 55  
m<sup>3</sup>/ha, 枯損率 10.2%

CIFOR の研究戦略について CIFOR 所長から、③研究強化のための FAO の役割について FAO・RAPA 所長から報告があり、その後でこの地域における研究戦略や 2020 年シナリオ等が議論された。いずれの発言も、2 月の IPF 第 4 回会合で取りまとめられた「CSD への報告書」と合意された「行動提案」や 3 月の FAO 本部における第 13 回 COFO 総会で合意されたアジェンダに係わるもののが中心であった。特に、IPF が各国や国際機関に対して求めていた「研究活動を森林計画の策定・実施・評価過程に組み込むための制度などを整備し、試行・実施することや、「研究課題の的確な優先付けと研究成果の速やかな適用がはかられるよう、参加型・現場型の研究を推進する」ためには、APAFRI のような組織が主導性を發揮していくことが重要であるとの意見が会議全体の総意となったことを強調しておきたい。地域をあげてこの APAFRI の活躍を期待していること、そして、我が国における国際的研究開発はもとより、国内的研究開発も、このような地域システムと無関係にはあり得ないこと、いや、積極的にこの地域システムと連携をとっていく必要性があることを強く実感した次第である。

今回のような林業研究関係の国際会議がベトナムではじめて開催されたとあって、農業地方開発省をはじめ、ベトナム森林科学研究所（FSIV : Forest Science Institute of Vietnam）挙げて、会議の成功と参加者へのもてなしいろいろとご配慮・ご尽力を頂いた。お陰さまで有意義で快適な滞在であった。特に、ホーチミン市から車で 1 時間半ほどの Song May 造林試験地（荒廃草原地帯に植栽されたユーカリ類、アカシア類、カリビアマツの 5~9 年生の試験造林地）と Trang Bom 植物園へのフィールドトリップやサイゴン河水上での晩餐会は、極めてタイトなスケジュールの中で心安まる楽しい貴重な思い出となった。ところで、JICA がベトナムで新規プロジェクト「メコンデルタ酸性硫酸塩土壤造林技術開発計画」（3 年計画、於ロンアン省タンタイン地区）を開始したが、そのカウンターパートとなる FSIV ホーチミン支所が、プロジェク

ト・スタートを祝う内輪の夕食会を開催し、着任間もない日本側専門家一同（リーダ：中林一夫氏）と私を招待してくれた。楽しい団欒の中で、このプロジェクトやこれから日本の支援に対する熱い期待が語られた。FSIV所長のDr. Ha Chu Chu や同研究所ホーチミン支所 Mr. Ngo Duc Hiep 所長をはじめとしてベトナム関係者の皆様に、この紙面を借りて心から御礼申し上げ、筆を置くこととする。

注 1 APAFRI : The Asia Pacific Association of Forestry Research Institutions (アジア・太平洋地域林業研究機関連合)

注 2 FORSPA : The Forestry Research Support Programme for Asia and the Pacific (アジア・太平洋地域林業研究支援計画)

〔参考文献〕 1) 池田俊彌 IUFRO-J ニュース No. 60 (1997) p. 9~10. 2) 小林富士雄 热帯林業 No. 20 (1991) p. 2~8.

---

### 《お知らせ》

#### 熱帯林造成技術研修

(財)国際緑化推進センターでは、平成3年度から実施してまいりました熱帯林造成技術研修について、本年度は次の内容で実施します。

日程は、平成10年1月25日(日)～1月31日(土)で、場所は国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)を予定しています。全員泊まり込みの研修です。

参加者は、日本国内の林業NGOのメンバー、青年海外協力隊派遣予定者、海外の緑化活動に参加を予定されている方々で、研修開始日に満60歳未満の方を考えています。

研修では、熱帯の植生や育苗、造林など森林造成技術向上のための講義、海外での植林活動の推進のための情報交換などを行ないます。

(財)国際緑化推進センター